

語り部の使命感に感銘
参加型支援の大切さ考える

仙台市泉区 松田万里さん(40)

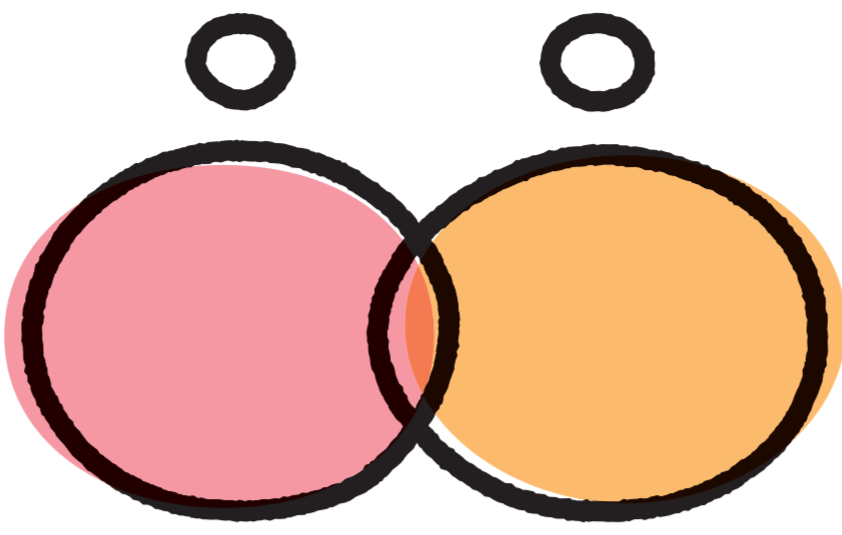
ツアーでは、震災で被害に遭った方や語り部の方からさまざまな話を伺いました。女川から金華山に向かうフェリーを運航する船会社さんの、地元への熱い思い。震源地に一番近かった金華山の、被害の様子や厳しい現状。震災の経験や復興への道のりを伝えたいと強く願っているみなさんの思いを知り、被災地で暮らす人間としての使命感や郷土愛を感じました。

私もボランティア活動に参加しています。震災を風化させないよう、継続した活動にしたい。今では、交流がキーワードになると思っています。「今できることプロジェクト」のような参加型の企画を、意図的に作っていくことが大切



ではないでしょうか。メディアが震災の話題を取り上げる回数が減り、残念ながら人々の関心も低くなっているように感じます。それでも自分のできることは何かと考えている人はたくさんいるはず。人としてどう行動するか、どうあるべきか。ツアーに参加した経験を生かして考えを深め、今後のボランティア活動や支援につなげていきたいと思っています。

いっしょにアクション!



今できること
プロジェクト
2013

足が遠のいていた沿岸部
訪れて、本当に良かった

仙台市太白区 菊地芳子さん(48)

私ができることとして、買い物を通じた支援を心掛けてきました。被災地の企業が作った商品や農水産物を優先して買うようにし、お土産にも使っています。

震災後、被災した三陸沿岸部に足を向けることを避けてきました。物見遊山や物珍しさという気持ちで訪れては、被災した方々に失礼だと考えていたためです。被災者の苦しさや厳しい生活状況を報道で知るたび、何もできない自分を心苦しく感じるばかりでした。

今回のツアーに参加して、語り部のみなさんからまだまだ厳しい現状を伺いました。ですが、そんな中でも「前を向いてやっていこう」という強い



気持ちを感じることができました。現地に來ることができて本当に良かった。金華山で買い求めた朱印帳を持って、来年も、さ来年もお参りします。そして今後も被災地が立ち直っていく様子を見守り続けたいと思います。

自宅近くに仮設住宅があります。困っている方がいて、私にできることがあれば、ボランティアなどの形でお手伝いしていきたいです。

被災地を訪ねる観光型支援《バスツアー》レポート

訪れて、感じて、
確かめることが第一歩。

震災からまもなく3年、という時期を迎えています。震災直後に求められていた支援の仕方は、変わってきています。少し時間が経った今、求められている支援のあり方もあるはず。今できることプロジェクトでは、今何が必要なのか、私たちに何ができるのか、読者の皆さん、賛同企業の皆さんとともに考え、いっしょに行動する、という活動を続けてきました。

今回実施したのは「被災地を訪ねる観光型支援」。実際に被災地を訪ね、現地を自分の目で確かめ、現地の人に直接話を聞いて、被災地の現状や取り組み、どんなことが課題になっているのか、などを把握しよう、そして学んだことをより多くの人に伝えてみようという活動です。

バスツアーの実施に先立ち、紙上で「被災地に来てほしい、知ってほしい」という団体を募集し、多数の応募がありました。事務局において決定させていただいたのが、今回の訪問先「金華山」です。

青く輝く海。
すばらしい景観の金華山。

さて今回訪れた金華山は、震災前は年間6〜7万人が訪れる観光地でした。震災により建物と参道の崩れなど大きな被害を受けました。震災当日、金華山は鮎川側と女川側からの津波が激突し、とても大きく大きな津波となって押し寄せた、権瀬日野さんは説明していました。定期船の運航中止や減便もあり、観光客は激減しました。

参道もまだ修復途中で歩きにくい状態でしたが、被災当時の写真を見ると、すさまじい崩れ方だったことがわかります。よくここまで復旧したと思います。バスツアーの日、南三陸国定公園の碑が建つ参道の中腹からは、青く輝く海。ほんとうに穏やかな国定公園の眺めでした。

今回は金華山を訪れましたが、ぜひ被災地を訪ねてみましょう。漠然とイメージしている被災地のほんとうの姿を、実際に歩いて自分の目で確かめてみましょう。震災のことを風化してしまわないように。被災地を訪ねることで、地元の人とつながることができ

紙面下欄では、応募いただいた団体・観光地の中から一部を紹介しました。こちらにも、ぜひ足を運んでみてください。



この他に、応募があった
「観光型支援」の訪問先を、ご紹介します。
こちらにも、ぜひ訪ねてみましょう。

みんなが集まる場所に

●南三陸直売所 みなさん館



みなさん館は2011年10月宮城県本吉郡南三陸町歌津地区にできた民間の直売所です。地元農産物や海産物、味噌や漬物などの加工食品、お土産などを製造販売しています。

南三陸町は津波で甚大な被害を受けました。歌津の被害も大きく、多くの住民が仮設住宅の暮らしを強いられました。復興関係の仕事や被災地ツアーなどで訪れる人は少なくありませんが、歌津は町の中心部から少し離れた場所にあります。なかなか足を延ばしてもくれないのが現状です。

それでもみなさん館には今でも毎週末東京からボランティア団体のバスが来てくれます。飲食コーナーもあり、住民の憩いの場にもなっています。人が集い、交流



南三陸直売所 みなさん館
所在地: 南三陸町歌津管の浜57-1
電話: 0226-36-2816
http://minasanakan.com/

何度でも訪れて、見てほしい

●気仙沼復興商店街 南町紫市場



私たちの仮設商店街には、地元で被災した商店や飲食店53店舗が入居しています。歴史ある割烹料亭から土産物店、生活用品を扱う店までと通りそろう、観光客のみならずにも楽しんでいただける場所です。

気仙沼は、がれきの撤去がようやく終わりました。街づくりは始まったばかりで、復興が進んでいるとは言えません。震災後、2年目では大勢来てくれたボランティアや被災地を巡るバスツアーも次第に減り、風化を感じます。

不安や厳しさはありますが、街の魅力は失われたいません。特に食材は豊富。今は牡蠣やホタテなどの貝類が美味しい時期です。特産のフカヒレも、加工場が再建され、生産が戻りつつあります。



気仙沼復興商店街 南町紫市場
所在地: 気仙沼市浜見山1-1
電話: 0226-25-9756
http://kesenumafs.com/

癒しの時間を楽しんで

●みやぎの明治村「歴史資料館」



登米市登米(とよま)には、明治時代に建てられた建物が当時の面影のまま残されています。周辺はほかに明治をしのばせる建物が残っており、その街並みから「みやぎの明治村」と呼ばれています。

震災前は関東方面などから大勢のお客様に来ていたのですが、市内は震災で最大震度6強の地震に見舞われ、建物の多くが被災してしまいました。私が館長を務める歴史資料館は教育資料館など5つの施設を総称しています。震災前の建物と変わらぬよう修復しながら営業を続け、昨年11月にすべての工事を終えました。しかし、宮城県の内陸部を訪ねる観光ツアーが減ってしまったことから、入込客数は震災前の6割までにしか戻っていません。



みやぎの明治村「歴史資料館」
所在地: 登米市登米町池袋小路2
電話: 0220-52-5566(とよま観光物産センター内)
http://www.toyoma.on.arena.ne.jp/

皆さんの支援情報や参加しているプロジェクト、感じていることを「今できることプロジェクト」特設HPにお寄せください。

www.kahoku.co.jp/imadeki/index.html

河北 今できること

検索

facebookページもあります。

●私たちが、被災地支援のため「今できること」をとともに考え、このプロジェクトを推進していきます。

IHI/アヴィエスホーム/アサヒビール 東北統括本部/石巻専修大学/岩手日日新聞社/エイチ・アイ・エス/NEC/NTTデータ東北/キャンノンマーケティングジャパン/キンピールマーケティング 東北統括本部/ケーズデンキ/サッポロビール 東北本部/サントリーピア&スピリッツ 東北支社/JA全農みやぎ/JTB東北/鈴木工業/住友生命 仙台総支社/住友不動産/住友林業 仙台支店/青南商事/セガサミーグループ/セキスイハイム東北/石油連盟/積和不動産東北/第一生命 仙台総合支社/大成ハウジング/大東住宅/タゼン/伝承千年の宿 佐勤/東海東京証券/東北ミサワホーム/東北三菱自動車販売/一般財団法人 日本手芸学会/日本政策金融公庫 仙台支店/日本製紙/日本製紙クレシア/日本生命 仙台支社/野村不動産/はとバス/平松剛法律事務所/ビルワーク/フージャースコーポレーション/富士通エフ・アイ・ピー/富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ/ベルモードスズキ/北洲ハウジング/松島一の坊/三井不動産/三菱地所グループ/宮城県建設業協会/宮城県自動車整備振興会/宮城県遊技業協同組合/みやぎ生活協同組合/明治安田生命 仙台支社/鷹泉閣 岩松旅館/リコージャパン 東北営業本部/河北新報社(順不同)

◎後援/宮城県、仙台市、宮城県市長会、宮城県町村会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会